

平成 29 年 12 月 1 日開催 第 1 回美祢市総合教育会議議事録

開催日時 平成 29 年 12 月 1 日（金）午後 3 時 30 分から午後 4 時 14 分
開催場所 美祢市役所 3 階 委員会室

出席者 西岡 晃 市長
岡崎 堅次 教育長
前田 耕次 教育委員
秋山 信登 教育委員
金子 明美 教育委員
山本亜由美 教育委員

6 人

出席教育委員会事務局職員 金子 彰 事務局長
千々松雅幸 // 教育総務課長
長谷川 裕 // 学校教育課長
西村 明久 // 生涯学習スポーツ推進課長
野尻 悟 // 教育総務課長補佐
市長部局職員 石田 淳司 市長公室長
山本 英樹 市長公室秘書係長

7 人

開 会

金子事務局長

ただいまから、平成 29 年度第 1 回美祢市総合教育会議を開催いたします。
まず、開会にあたりまして、西岡市長が御挨拶を申し上げます。

西岡市長

改めまして皆さんこんにちは。今年度第 1 回目の美祢市総合教育会議を開かせていただいたところ、教育長を始め教育委員の皆様には大変お忙しい中お集まりをいただき、厚く御礼を申し上げます。

本日の総合教育会議ですが、美祢市教育の課題や教育委員会の皆さんが日頃思われていること、そして私の考え等を共有ができればと思っています。どうぞ、忌憚のないご意見をいただきながら、会議を進めて行きたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

金子事務局長

本日の会議の委員は、市長、教育長、教育委員によって構成されています。本来であればお一人お一人御紹介を申し上げるところですが、お配りしてあります資料の1ページに名簿がありますので、大変恐れ入りますが、これをもって紹介に代えさせていただきます。今後の議事進行につきましては、主宰者であります市長にお願いします。

西岡市長

議事に入る前に、昨年度の本会議では、私が市政方針の1つの柱に掲げています「教育充実都市」について、教育長・教育委員の皆さんと意見交換させていただき、美祢市の教育行政の目指す方向性を皆さんと共有することができたと思っています。引き続き、「教育充実都市」の実現に向け、これまで以上に未来を担う子どもたちの成長を支え、子どもたちの夢と未来が輝く可能性を最大限に伸ばせる取組みをしていきたいと思っていますので、よろしく申し上げます。本年度は、「ICT教育環境の充実について」、「学校図書館の充実について」、「公民館活動の充実について」の3つの議事に絞って、意見交換をしたいと思います。まず、議事1「ICT教育環境の充実について」の意見交換をしたいと思いますので、よろしく申し上げます。

前田委員

それでは、ICT教育環境の充実について、市長へ要望を申し上げます。現在美祢市の児童・生徒が使う教育用コンピューターの台数は、2.5人に1台で県下でもトップクラスですが、他のICT環境整備は大変遅れています。平成32年度から始まる次期学習指導要領は、情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピューターや情報通信ネットワーク等情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることと規定し、ICT環境整備を謳っています。また、平成30年度から始まる国の第三期教育振興基本計画を見据え、地方財政措置を積極的に活用し、地方公共団体においては、今後の学校におけるICT環境整備を教育委員会と市長部局が連携することによりICT環境整備を進めることが重要とされています。本市のICT環境整備は、平成21年度のICT事業で整備した校務用パソコン、教育用パソコン、電子黒板等については更新時期を迎えています。校務用パソコンについては平成28年度からの三ヶ年計画で更新することにしてはいますが、他のICT機器については今後整備計画を策定する必要があるとされています。また、セキュリティ対策については、パソコン教室の学習系端末は対策済みですが、パソコン教室以外の学校内のセキュリティ対策は不十分で、校務系システムと学習系システムの分離や、無線LAN環境でのセキュリティ対策が課題となっています。教育委員会では学校ICT機器整備方針を掲げ、学習活動を支えるICT環境の充実を目指しています。特に、学習にICT機

器を取り入れると、「言葉の情報ではなく、視覚・聴覚でも情報提供ができる」「子どもたちの学習への興味関心が高まる」「個別学習ができる」「教員と子ども、子ども同士の教え合い等の共同学習ができる」等、ICTを効果的に活用した分かり易く深い授業ができます。また、成績の向上や学習意欲が高まり、視覚に訴える教材準備が容易になり、教材研究や教える時間が短縮でき、教員の業務改善に繋がる等、ICTを活用すると教育効果が上がる等の利点があります。次にタブレットの具体的な活用内容を見てみますと、タブレットや短焦点プロジェクター等のICT機器を活用し、課題・説明・指示等を映すことができます。また、タブレットを活用することで、とび箱、音読、合唱等の振り返り学習や情報共有が容易となり、課題の発見、解決に繋がる等教育効果が大きいことが分かります。現在、教育委員会では、ICT整備期間を平成30年から34年までの5年間を予定しています。特に、学習に関する環境機器の整備計画は、平成30年度には2人に1台の教員用タブレット、3学級に1台のプロジェクター、各校にタブレット保管庫の整備をすること、教員のICT研修の実施を予定しています。平成31年から33年度には中学校に教育用ノートパソコンを整備し、平成32年度には児童・生徒用のタブレットを2人に1台、平成33年、34年度には無線LAN環境の整備等を計画しています。教育情報漏洩事故予防のセキュリティ対策、学校と教育委員会とのネットワーク構築等の環境整備も重要となってきます。以上述べましたが、美祢市の児童・生徒の学力向上、教職員の業務負担の軽減と子どもと向き合う時間の確保等、ICT機器を充実させることで教育の質の向上が可能となります。教育環境の充実が市長の10の公約の一つでもあり、是非とも予算化をよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

西岡市長

ありがとうございます。その他ありましたらお願いします。

秋山委員

現在の美祢市内では東京大学の市川先生の御指導の下、「教えて、考えさせて、定着させる授業づくり」を積極的に推進しているところです。特に私ども教育委員も、毎年各学校全部を訪問して、授業参観や先生方とお話をさせていただいています。各学校とも先生方の努力の甲斐もあって、授業改善がなされ学力が非常に向上してきています。これもひとえに市長部局を始めとし、関係各位の皆様のご理解ご協力の賜物ではないかと思っています。さて、先ほど前田委員からも議題となっているICTの整備につきまして、これは、次期学習指導要領に対応した学びの場として、教育の情報化を着実に推進していくことが現在試みられています。情報化やグローバル化等急激な社会の変化の中でも、何が重要かを主体的に判断する力を身に着け、新たな価値を創造していくとともに、問題解決に繋げていくことが重要となってきていると思います。情報通

信技術（ICTやIoT、インターネット）が現在生活に不可欠になっているところでは、教育委員会では、児童・生徒、教職員、学校が使いやすく、教育の質的改善に繋がるICT環境の整備を段階的に行うため、学校、教育委員会、市長部局で構成する学校ICT機器整備計画検討会議を、豊田前小学校の校長を会長とし設け、ICTの環境整備についてまとめてまいりました。これについては、先ほど前田委員からご説明があったとおりとなります。このICT環境の整備について、ご理解ご協力のほどお願いしたいと思います。特に、私も学校を訪問しておりますが、特別支援教室の子どもたちはタブレットを本当に興味深く、関心を持って使っています。先生方の努力ももちろんあるかと思いますが、非常に教育効果が上がっている様に感じているところです。

また先日、厚狭地域のコミュニティスクールの会議が美祢市民会館で開催されました。各市ではふるさと教育、特に美祢市では基本教育として力を入れているところですが、この中で、卒業していく子どもたちがふるさとに帰って定住し、これからの地域の力となってくれることを望むという声が出ていました。私も同感だと思います。そのためにも、近隣市と連携しながら、美祢市の子どもたちが定住できる環境づくり、特に勤める場所の確保、企業誘致等をこれからもご尽力いただきたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

西岡市長

ありがとうございます。今、ICT環境の整備について、前田委員、秋山委員からご指摘いただきました。美祢市教育振興基本計画の中で、「夢、希望、誇りを持って、21世紀を生き抜く人材の育成」ということを謳っています。やはり21世紀の現代社会を生き抜くためには、先ほど秋山委員が言われたとおり、ふるさと教育、グローバル教育、そして情報教育というのが必要だろうと思っています。ICTの環境整備につきましても、できる限りご要望にお応えできればと思いますし、また、そういうことを一つずつ丁寧にやることが、「教育充実都市」の目指すべき環境整備の一つだろうと思っています。また、そういった中で色々な問題が発生してくるだろうと思っています。教育の質の問題、色々な情報が氾濫してその情報をどのように子どもたちが仕分けをしていくかという教育も大変必要だろうと思っていますので、そちらの方にも是非力を入れてやっていただければ有難いと思っています。その他何かこの件についてありましたらお願いします。

岡崎教育長

このICT教育については、今年の総合教育会議でもICT教育の必要性について少し触れたと思います。近年、ICT教育推進の取組みが国の動きとしてありますが、モノが先に入ってしまった、そのモノを十分に活用しきれないということがあります。現在、各学校に整備している電子黒板について、なかなか先生方がそれを使いこなせないということが、実際私が現役の時にもあり

ました。今回、これだけICT教育と言われてきているのですが、美祢市の教育委員会としてはまずは先生方に機器の使い方から始めて、どういう活用法があるのか、どういう風な学習教材があるのか、そういうものも上手に使いこなすためのノウハウをまずは先生方に学んで欲しいということから、今回先生方2人に1台のタブレットを配布することによって、技術・知識等のスキルアップを狙いたいと考えています。それとゆくゆくは、遠隔授業や、極小規模校の学校でタブレットを導入することによって、複式学級で担任の先生がついていない時にタブレットを先生代わりとして活用するような有効的なタブレットの使い方というものもあると思います。そういう面で教育委員会は、平成30年度については先生方の研修を中心に進めて行きたいと思っています。そして32年度から順次子どもたちにタブレットを配布し充実を図っていきたいと思っています。

西岡市長

ありがとうございます。先日ジオパークの全国大会の研修で秋田県に行ったとき、秋吉台の上にあるカルスターから遠隔操作で、北海道の小学校に秋吉台の今のジオパークの取組みなどを教えていたということ、初めて知って、凄いことをやっているのだなと思いました。そういった遠隔地からの情報による学習もこれから大いに必要になってくるだろうと思いますので、このICTの教育についてしっかり取組んでいきたいと思っています。まだまだご意見があるかと思いますが、次の議題に移らせていただいてよろしいでしょうか。それでは議事の2番目といたしまして「学校図書館の充実について」の意見交換をしたいと思っています。よろしくお願いたします。

金子委員

それでは、学校図書館の充実について意見を述べさせていただきます。美祢市では、美祢市教育振興基本計画に則り、平成26年度から学校図書館担当職員を配置して学校図書館の充実が図られているところです。26年度は1名、27年度、そして28年度は2名の職員が市内小中学校5校を対象に巡回し、学校図書館の環境整備、教職員への指導・助言、読み聞かせ等による児童・生徒への読書活動の啓発等を行っています。本年度は学校現場からの要望もありまして、2名の担当職員で昨年度の2倍の市内小中学校10校を巡回して、多くの成果が上がっていると聞いています。しかし現状のサイクルでは市内小中学校への支援が隔年となります。また、学校現場からも毎年の支援を要望する声が多く上がっています。国も今年度新たに「学校図書館図書整備等五ヶ年計画」をスタートさせています。その中を見ると、学校図書館の3つの機能である、読書センター、学習センター、情報センターを更に充実させると共に、新学習指導要領に「主体的、対話的で深い学びを効果的に進める機関としての役割を担うように」とあり、学校図書館担当職員配置の拡充が明記されています。そ

のための地方財政措置も行われていると聞いています。そこで是非、各小中学校に対して、隔年ではなく、全ての学校に毎年支援することができるように学校図書館担当職員を倍増して、4名体制での予算措置をお願いしたいと思っています。そして最終的には、各中学校区にそれぞれ1名配置できるということを希望したいと思います。以上で終わります。

西岡市長

はい、ありがとうございます。その他ありましたらお願いします。

山本委員

金子委員さんに付け加えて、私は学校図書館担当職員の巡回指導の成果について3点述べさせていただきます。一つ目は、図書整理や図書コーナーの設置を通して学校図書環境整備が図られ、児童・生徒や教職員から高い評価を得ていることです。二つ目は、読み聞かせやブックトーク等を通して、児童・生徒への読書活動の啓発が図られていることです。今年度の「全国学力学習調査児童・生徒質問紙」の“学校図書館や地域の図書館へ週1回以上行く”の割合が、小学校6年生で29%、27年度と比べ4%アップし、中学3年生では15%で、27年度と比べ5%アップしていると聞いています。三つ目は、図書館の本の整理等を巡回指導の際にさせていただけることで、先生方の業務改善に繋がっていることです。このことで先生方が児童・生徒に向き合う時間をより多く確保でき、教材の準備等に時間を充てることができています。そこで、今後も学校図書館担当職員の巡回指導によってそれらの成果が更に上がるように、学校図書職員を倍増し、4名体制のための予算措置をお願いしたいと思います。以上です。

西岡市長

ありがとうございます。学校図書館について、私も昨年、母校の小学校運動会に行き、図書室でのお昼休憩の時に、まだ私が卒業する前の図書を見かけ、随分古い本まで置いていると感じました。やはり、学校図書の支援は重要だろうと思っていますし、また、読書をするということが、子どもの基本であり、学習の一つではないかと思っています。そういった面では、学校図書館の支援として、担当職員について財政的な限界までは増やしていければと思っています。また、新しい図書の購入についても色々な面から支援をしていきたいと思っています。子どもたちが図書館や読書に親しむ環境を作っていくような政策についても、色々な知恵をお借りしながらやっていきたいと思っていますので、よろしくをお願いしたいと思います。その他何かありませんでしょうか。

岡崎教育長

今の学校図書館について、金子委員、山本委員の意見に付け加えさせていた

だき、私が学校現場にいた時に、学校図書館支援員に来ていただいた際の成果を実際に感じたことを申し上げます。私が伊佐中学校にいた平成27年の時には、2年に1回、半年ほど来ていただけるという状態で、ちょうどその年に支援員に来ていただきました。学校図書館は先生方も他の業務が忙しくて手が回らない状況でしたが、支援員には学校図書館の色々な本の展示の工夫や整理をしていただきました。また、新書の紹介や掲示物など、子どもたちが本を読みたくなるような雰囲気づくり・環境づくりを上手にやっていただいて、毎年学校に支援員として入っていただけると助かるということを現場で実感しました。それから、今市長が言われた古い本があるということについて、学校図書館には基準冊数があり、その基準を満たすために古い本を捨てることができないという面もあります。美祢市の場合は、新しい本を買う予算が他市に比べるとよく措置されています。各学校が新書をたくさん購入できて、新陳代謝をするまでには至らないですが、子どもたちが必要とする本は確実に購入できていると思います。たくさん予算があることに越したことはありませんが、美祢市は、図書費の予算の面では他市に比べ予算確保していただいているというのは実感しています。

西岡市長

ありがとうございます。その他ありましたらお願いします。

秋山委員

学校図書館の職員は現在2名ですが、子どもたちがこの出会いの中で、自分の人生の中の一冊に本当に巡り合い、これが一生を左右することになるかもしれませんので、是非どの学校にも回れるように、今の2名を4名にしていればと思います。前向きな回答をいただきましたので、よろしく願いしたいと思います。

西岡市長

ありがとうございます。是非、予算の許す限り対応していきたいと思っています。その他ありませんでしょうか。

岡崎教育長

現在、市内の学校は、コミュニティスクールを推進しています。学校・家庭・地域がしっかり連携をしています。地域内で図書の好きな方などにボランティアとしてブックトークや読み聞かせに入っている学校もあります。学校図書館支援員の4名とは別に、それぞれの学校が図書に携わっていただける地域の人材を発掘して、学校に入っていくようなコミュニティスクールの在り方もあるのではないかと考えています。それぞれの学校で、地域の中に興味のある方がおられたら学校に足を運んでいただいて、学校の先生方と

話をしていただければと思っています。

西岡市長

ありがとうございます。今教育長が言われた地域の人材の活用や、地域の方にお手伝いいただくということは、非常に大切なことだろうと思っています。そういった意味では、次の議題の公民館活動をどういう風に充実させていくかということが重要になってくるのではないかとと思っています。これにつきまして議題を替えさせていただき、次の議事3「公民館活動の充実について」意見交換をしたいと思いますので、よろしくお願いします。

岡崎教育長

公民館活動の充実については、私の方から口火を切らしていただければと思います。公民館の充実というのが学校にとってはとても大切で、特に、先ほど申しましたように市内の各小中学校がコミュニティスクールを推進していますが、コミュニティスクールを推進する上では、公民館の存在が重要となります。現在、市内の公民館は、公民館という機能と出張所という機能と二つの機能がありますが、私は社会教育法に則る公民館という形で話をさせていただければと思います。今、中学校区で「地域協育ネット」というのをやっていますが、それぞれ公民館があります。学校の後ろに児童・生徒がいて、公民館の後ろには地域住民がいるということから、公民館というのは、地域住民が集い、そして色々な教育活動で学び、そして色々な方々を繋いでいく役割を担い、生涯学習・社会教育施設として存在しているのだらうと思っています。公民館には様々な活動団体があり、その活動体験を学校教育に活用して活性化に繋げていけたらと思います。例えば、現在ある動きとしては、花を活ける華道について、市内の学校では、多くの地域の方が学校に入ってボランティアで花を活けていただいているという例があります。そういう公民館での活動を学校施設の中に取り込んで、活動団体の学習成果を学校の児童・生徒に活かすということは、学校現場の学習評価が上がり、子どもたちにとって良いこととなり、また地域住民にとっては、日頃自分たちが公民館を中心にやっている専門的な活動が子どもたちのために活かされることとなります。また、それがその方にとっての生き甲斐にも繋がるのではないかとと思います。子どもたちは色々な形で支援をいただき、地域の方は自分が持っている教育力を子どもに繋げて、それが地域の元気となり、また地域づくりに繋がっていくのではないかとと思っています。そういう意味で、公民館がコーディネーター役といいますか、学校と地域を繋ぐ役を担っていけば、コミュニティスクールの充実に繋がっていくと思っています。以上です。

西岡市長

ありがとうございます。私は「教育充実都市」ということで事あるごとにお

話しさせてもらっているのですが、意外と、小学生・中学生・高校生などの学生だけではなく、生涯学習や地域の方々の力を借りながらのコミュニティスクールといったものを、全体的にレベルアップさせていきたいというところです。やはり地域の皆さんの集いがある、学ぶ場所がある、そして地域全体を結んでいく、この繋がりが良い形で回っていけばその地域の活性化に繋がっていくのであろうと思っています。また、それがひいては地域力を上げ、公民館活動が盛んになると考えています。そういった意味でも公民館という存在は、地域の中心であり、そこを拠点に、小学生、中学生、また生涯学習を繋いでいくのが役割だろうと思っていますので、公民館につきましても今まで以上に充実させていきたいと思っています。この件につきましても何かその他ありましたらお願いします。

前田委員

公民館で様々な活動がされていますが、公民館の活動に参加される方はほんの限られた方だけであり、一般の地域の方がなかなか参加されていないというのが現状です。私は秋吉ですが、公民館の方が公民館だよりで、各家庭に「何をする」というのを知らせているのでわかるはずなのですが、それでも参加が少ないです。特に先日の市民総出の清掃作業では、少々雨が降りましたが、年2回のうち1回は秋芳中学校の生徒の皆さんが参加してくださっています。しかしながら、あとの大人は公民館の運営委員さんなどで、その他の方の参加が少ないというのが現状です。従いまして私が思っているのは、やはり公民館を助ける地域の応援団といいますか、公民館の応援団。そのようなものを作っていけば、色々な公民館の活動をするときに地域の方が集まってくださることです。その一番の基は、市職員のOBです。OBの方に声を掛けて、一人でも二人でも、という形でいけば、段々口コミで広がっていくのではないかと思います。そういったことをやっていくのも一つの方法ではないかと思っています。

西岡市長

ありがとうございます。公民館の活動も地域によってすごく温度差があり、現在移動市長室ということで各公民館を回らせていただいています。そういった印象を受けるところがあります。公民館がどのような取組みをやっているのかという情報が、市内全域にあまり発信されていないのではないかと感じています。そういった意味でもやはり、先ほど前田委員が言われたように情報発信をもっと行って、それを市職員OBだけではなく、地域にいる市職員、そして住民の方に応援をいただいて、公民館活動をしっかり行うことが、地域がパワーアップすることに繋がると思いますので、私も先頭に立って情報を発信し、そして地域の活動に参加していきたいと思っています。その他ありましたらお願いします。

秋山委員

それぞれが今言われましたように、公民館単位での地域の課題、目指す未来像はそれぞれ異なると思います。特に公民館活動は、顔が見えなければ公民館活動にはなかなかありません。そこで提案なのですが、地域で振興策といいますが夢プランを策定しながら、市の振興策と共有する事業に優先順位をつけながら進めるのも一つの案だろうと思います。また、ある程度それぞれの公民館を活性化させるために、自由に使える交付金などの予算を少しばかり考えてつけていき、今後の活性化に繋がるようなことがあれば一番良いのではないかと思います。ただ、一番大変なのは少子高齢化によって、その中心となる人を見つけるのがなかなか難しくなってくるという現状であろうと思います。以上です。

西岡市長

ありがとうございます。秋山委員が言われる、公民館単位の問題点というのは千差万別でありまして、今ご存知の通り、赤郷地区をモデル地域に指定させてもらって公民館中心に夢プランを作成していただいているところです。交付金のような自由に使えるお金を、とのことですが、ばら撒きになってはいけませんので、やはり本当に地域が振興できるようなしかりとした事業計画を作っていただいて、それに対して予算をつけて地域振興を図っていきたいと思っています。モデル地区に指定している赤郷地域が成功すれば、他の地域に波及できると思いますので、是非よろしくご指導いただければと思います。その他ございましたらお願いします。

岡崎教育長

実際の動きとして私が感じたことなのですが、秋の総社会参加活動があって、旧美祢市の場合は花植えを中心に実施していたのですが、今年から新しくゴミ拾いをしようということで、その地区の担当の人がみんなに声掛けをして、今までなかったことですがやりましょうと声を掛けて、結構な人数が集まりました。まさに人材だろうと思います。徐々にではありますがそういう声掛けをする人がいれば、地域の人が参加してくれるのではないかと思います。人材がいないとなかなか集まらないですが、それでもそうやって声を掛ける人から、参加した地域の人に一つ輪が広がっていくということもあるのではないかと、今年の秋は実感しました。

西岡市長

ありがとうございました。正にその通りだろうと思っています。その他何かありませんでしょうか。

西岡市長

よろしいでしょうか。予定していました議事につきましては、以上で終了したいと思います。その他全般的に何かありましたら何でも結構ですので、お願いしたいと思います。

特にないようですので、終わりにあたりまして私から一言御礼を申し上げます。

本日は、教育長、教育委員の皆様、ご多忙のところありがとうございました。皆様より貴重な御意見をいただき、美祢市教育委員会がICT教育環境、学校図書館、公民館活動の充実に向けてどのように取り組んでいくのか、よく理解させていただきましたし、共有できたと思っています。また、私の政策の方向性も教育委員の皆様方にお伝えをすることができました。大変有意義な会であったと思っています。皆様から頂きました貴重なご意見を参考にして、子どもたちの未来が輝かしいものになるように、そして、美祢の地域が一層発展するように、これから皆様方と手を携えて取り組んでいきたいと思っています。

今日は、本当に貴重な時間、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。お疲れ様でした。

金子事務局長

ありがとうございました。以上をもちまして、平成29年度第1回美祢市総合教育会議を終了したいと思います。ありがとうございました。お疲れ様でした。